

四月の園藝

大 岩 金

幾回となく降りに降つた雪の跡をたつたのもつ
いこの間のやうに思つて居りましたがはやまた雪

かとまがふばかりの花ばかりの候を迎へました。

どこの幼稚園でも愛らしい方々が澤山お入りになつた事と思ひます。色々の點に新しくなりまして私共には正月のやうな感じも致します。この新しい氣持の中に何か皆様のお役にたちさうな新しい事を申し上げますとよろしいのですがいつもながらに是といふよい材料も得られません。もう前に申しました事の繰返しも時々は出るかもわからませんが今月からは行事めいた事を少しづつ申

し上げて皆様と御一緒に土いぢりしたいと思ひます。

まづ觀賞方面から申しますと草花類で開花して居りますものは大部分は秋植の球根類であります（三十卷第四號參照ありたし）その外春咲の宿根草類、或は二年草類でも比較的寒さに丈夫なもの又はフレーム或は藁圍等の防寒設備に依つて越冬したもののは美しく咲いて居ります。即ち櫻草類、シネラリヤ、デージー、バンジー、金盞花などの類であります。花木の類になりますれば瑞丁花、蓮翹、藤、海棠、桜、椿などその主なるものであり

ませう。その外郊外に遊びに出かけますならば、れんげ、たんぽぽ、すみれ、さざごけなど、また野趣に富んだ數々の草花が咲きみだれて居ります。

種播き

草花類にありますては秋咲きのものを前月に引きつづき播種するのでありますが名稱は前に申した事がありますから省略致します。

蔬菜類、是は家庭での副食物としての蔬菜の意味でなく幼児を主としての蔬菜即ち作り易いこと成育期間の比較的短かいもの、收穫したものが幼児の何かに役立てられはしないかと思はれますものあげる事に致します以後同様であります。

二十日大根、ピート、フダンサウ、シソ、レイシ、ヘチマ、菜豆^{イシグン}、鶴豆^{フチア}、刀豆、落花生、ツルナ、ホホヅキ、玉蜀黍等であります。

二十日大根、ピートは赤色種を選んだ方が子供には興味がある事と思ひます。

フダンサウやツルナは別に美しくはありませんが大變丈夫なもので誠によく茂るものでありますて、フダンサウは外側から／＼出た葉をかぎとれば新しい葉が内側に生じ暑い／＼真夏の候でもよく綠葉をしげらせて居ります。ツルナは枝から枝といぐらでも横にはひ茂るものでありますから芽先のやはらかい所を折りとつてあきますればまたその脇から新しい芽を出して茂つて参ります。それ故是等は今播いておきますすれば秋の末までたえずちまゝごとの材料などに供されること、思ひます。又家庭栽培の蔬菜としても充分價値あるものであります。

播種の仕方としては是等は移植に堪へるものでありますから苗床又は箱その他適當な場所に播種しておきまして後移植すればよいのであります。ヘチマは大ヘチマといつて大變長いのと食用ヘチマといふ小さいのとその中間の極普通のとあり

ますが色々交ぜれば變化があつて面白い事と思ひます。

菜豆は紅花種にすれば花が美しくて觀賞する事も出来ます。時は垣根などに絡ませ或は支柱を立てゝ是にのぼらせなどするのでありますから始めからその用意をして蒔きつけなければなりません（移植を忌みますから）。

その他のものは葉又は實を目的として空地があれば栽培してあきたいと思ひます。

移植及定植

草花類では昨年の秋に播種したもので中には一回移植して霜除のしてあつたのもあります。中にはまだ一度も移植しないで苗床にこみ合つてゐるものもありませう。一度もしてないものはな

るべく早く植え替へて根を充分に張らせてやらなければなりません。また移植をしてありますものでもあまり霜除の下などで伸びすぎて居りますものなどは一度心をとめて上にばかり伸ばさないで側芽を出させて株を張らせてやる事も必要であります。

薔薇の出たものは一定の場所に植え出しもしなければなりませんが、まだ觀賞の出来る花園の用意が出来て居りません場合は一時鉢にあげてあきますのも一つの方法であります。その外露地植でなく鉢植にしてそのまま地に埋めてありますものとかフレーム内にとり入れてありますものなどは土から堀りあげ或は鉢をゆるめ又は摘心するなどなかなか多忙であります。

次にダリヤやカンナに就きましては既に申し上げては居りますがまた堀り上げてありませんならば早く掘り取つて一時假植（ダリヤ）をしておいて芽を出させた後芽分けをして次に定植するのであります。

その他の管理

睡蓮もそろ／＼芽分けをしなければなりません 同時にこれまで落葉や茎などで霜除したり水づ汚れ勝であつた鉢はこの際清潔にしてやりたいのです。

その外秋菊、有禪菊など秋咲のもの、株分をしたりスキートビーや豌豆、トマトなども伸びるに

つれて支柱を立て、やらなければなりません。垣根のバラも芽が込みすぎて居ります所は思ひきつて芽を少なく残して他はつみとつてやりませんと後になつて蚜蟲のためになやまざれます。

いつまで外にゐても何日つゝけて出てみてもこの候には次から次へとする事がつきません。苗床にも花壇にも栽培するものゝ以上に勢力のよいのは雑草であります。まだ小さいのが少しばかりとしばらくそのままに捨て、おきますればやがてはあどろくばかりになります。一本でも二本でも見つけ次第抜きとらなければなりません。

また除草と同時に灌水や施肥にも充分の注意をはらひます／＼成長をはからなければなりません。

次に害蟲としていづれの草花、蔬菜にもつき易いのは蚜蟲であります。是は除蟲菊石鹼合剤で驅除されますから是を造つて置いて少しでも早く驅除してやります。彼の繁殖力の強い事は實におびただしいものであります。その他デリス石鹼も有効の様であります。

蚜蟲以上に感じのわるい毛蟲類も此の頃から次第に害を及ぼして参ります。中でも櫻などに多くつきするのは天幕毛蟲であります。名の如く枝の分れ目になつてゐるやうな所に丁度幕の如くに袋状の巣を造りこの中で孵化するのであります。やがて是が成長します時はこの巣からはひ出て枝中に廣がりたちまちにして綠葉は一枚も残らない迄に食し盡されるのであります。それ故出来うる限り早く見付けることが肝要であります。そしてまだ巣の中からはひ出ないうちに焼きつくすのであります。

次にこの期を失しましたならば今度は薬剤による外ありません。驅除剤としては砒酸鉛の撒布が最も安全で且つ有効の様であります。使用に際して注意しなければなりませんことは晴天無風の時を選ぶこと、葉の全面が濕ふやうに噴霧器で撒布することであります。